

受講者に配慮した講習会の雰囲気づくり

長野県動物愛護センター ○小平満 橋井真実 小林雅巳 藤森令司 岡野美鈴
宮入美帆 浦野絵梨 續木奏絵 田玉栞 松澤淑美

1 はじめに

令和元年（2019年）に発生した新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナ」という。）により、感染予防対策のため日常生活の様々な面が変化した。講習会や会議では集まって実施する対面形式から、各々の職場や自宅などから参加するオンラインでの開催が当たり前になった。オンラインでの講習会の受講は、対面形式と違い、画面越しから伝わる情報しかなく、また一方通行になってしまい単調になりがちで、会場の雰囲気が伝わらず、職場や家庭からの参加で集中しにくい状況と考える。

動物愛護センター（以下、「センター」という。）では様々な講習会を開催しており、飼い方教室や動物に関する講習会など、大人向けの講習会もあれば、小学校などに訪問しふれあい教室を行ったり、イベントで教室を開催するなど子供を対象とした講習会も行っている。また、オンラインを用いての講習も開催している。

今回、センターでコロナへの対策を行いつつ、対面式の講習会を行うにあたり、オンラインでは伝わらない、受講者へ配慮した雰囲気作りを意識しながら実施した講習会について、その概要を紹介する。

2 対応事例

(1) 事例1

- (ア) 対象者 猫の多頭飼育者
- (イ) 実施日 令和3年6月20日（日）
- (ウ) 会場 動物愛護センター 探Q館
- (エ) 参加者 2組4名
- (オ) 講習内容
 - ① ネコについて学ぼう（猫の飼い方について）
 - ② ネコのモデルルーム拝見（猫の生体展示）
 - ③ 工作の時間（猫トイレ、爪とぎ、猫のおもちゃ、段ボールハウス）
 - ④ ごみの分別について学ぼう
- (カ) 雰囲気作りのために配慮した点

- ① 猫を不適正に飼育していた多頭飼育者を対象とした講習会であったため、今までの飼い方を否定するような講習会とならないようにし、参加しやすく、楽しそうな雰囲気作りを心掛けた。
- ② 親しみやすい講習会のネーミングの考案、「ネコのきもちセミナー」
- ③ 明るく親しみやすいチラシ（図1）、次第の作成
- ④ 敢えてテーブルを置かないで、イスのみを自由に配置し、広々としたリラックスできる会場づくり（図2）
- ⑤ 柔らかい感じを醸し出すために、スタッフはひらがな書きの手書きの名札を着用
- ⑥ 聞くだけではなく、工作の時間を設け、体を動かすようにし、楽しむ時間を設定
- ⑦ 服装はラフな格好とし、センター職員は通常の服装



図1 チラシ



図2 リラックスした会場づくり

- ⑧ 会場は探Q館とし、靴を脱ぐことによるリラックス効果を期待
- ⑨ 様々な情報が見えてしまうと集中力が奪われてしまうため、不要なものを除去

(キ) 会場の雰囲気

明るく和やかな雰囲気の中講習会を行うことができた。参加者の講習会のアンケート結果より、「内容がよく分かった」「ためになった」「また参加したい」との意見が多かった。

(2) 事例2

- (ア) 対象者 猫の多頭飼育者
- (イ) 実施日 令和4年4月17日(日)
- (ウ) 会場 動物愛護センター 探Q館
- (エ) 参加者 2組4名
- (オ) 講習内容

- ① ネコのかいかた
- ② ネコのきもちクイズ(クイズを通して猫の飼い方を理解する)
- ③ ごみの分別について学ぼう

(カ) 雰囲気作りのため配慮した点

- ① 2回目の猫の多頭飼育者向けの講習会。1回目とは講習会の内容を若干変更した。飼い主は大人であるが、若干理解力が乏しい方がいたため、講習会の内容は小学生が理解できるようにした。
- ② ネーミングの工夫、「ネコのきもちセミにゃー」のニャーをにゃーとしひらがなに変更。
- ③ 親しみやすい春っぽいチラシ(図3)、次第
- ④ 楽しく学べるようクイズを取り入れた(図4)

(キ) 会場の雰囲気

クイズを取り入れたことにより、より楽しい雰囲気になった。クイズでは今までの誤った飼い方の気づきとなることができた。参加者からの感想は、「楽しかった」「参加してよかった」との意見であった。

(3) 事例3

- (ア) 対象者 イベント来館者
(ターゲットは小学生低学年)
- (イ) 実施日 令和5年1月14日(土)
- (ウ) 会場 動物愛護センター 探Q館
- (エ) 参加者 午前30名 午後30名
- (オ) 講習内容 うさぎものしりきょうしつ(新春おたのしみDAYの催事の一部)
ウサギの生体などの基礎知識について
- (カ) 雰囲気作りのため配慮した点
- ① うさぎ先生の登場(うさぎの被り物をして非日常を演出)
- ② 写真を多用したポップなスライド(図5)



図3 チラシ



図4 ネコのきもちクイズ



図5 ポップなスライド

3 まとめ

コロナウイルス感染症の発生により、対面での様々なイベントが制限され、オンラインの活用が活発になったが、対面でやってこそ意味のあるものも多い。今回は対面での開催をおこない、受講者に

分かりやすくかつ親しみやすい雰囲気づくりに配慮しながら講習会を開催した。

センターは設立後 22 年が経過したが、経年劣化を感じさせない清潔感のある施設であり、自然豊かな静かな環境で、立地環境も恵まれている。

そのため、施設自体が持っている心身へ与える影響力は高く、緊張感を解きほぐしリラックス効果を与え、来館者へ与えるイメージが大変好意的である。

このような環境を生かしつつ、受講者に配慮した講習会の雰囲気作りをすることによって、学ぶことに対してより集中でき、学習意欲が向上し、講習内容を伝えることができると思う。講習会のアンケートには雰囲気についての感想はないものの、講習会自体がよかったという感想から雰囲気（会場、講習内容、スタッフの接し方など）の影響は十分あるものと考えられる。

今回は、視覚に訴えてよい雰囲気を作ることに注力した。視覚以外にも雰囲気には、講師の話のトーンやスピード、スタッフの対応、匂い、時間帯など様々な要因によって形成される。

今後もセンターで行う講習会には、その目的に応じ受講者に寄り添いながら、様々な要因を考慮しつつ雰囲気作りに気を配り工夫をしながら実施していきたいと考えている。